

## <時代を超える種まきと刈取り>

ヨハネ4：35～38



刈り入れ時が来るまでに、まだ四か月ある』と言ってはいませんか。さあ、わたしの言うことを聞きなさい。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。【35節】

イエス様がここで言われたのは、実際の作物の収穫の事ではない。

みことばの種がまかれた地に実りが生じた。イエスキリストによる救いを待ち望んでいる人たちがすでにおこされ、「刈り入れ」すなわち、救われるのを待っているという事。

◆ イエス様と弟子達の間認識のズレあがった。

どのような状況下でこのことが語られたのか・・・それはサマリヤでの事。

弟子達・・・汚れたサマリヤ人が、悔い改めて救いに導かれて救われるなど、  
考えにも及ばない。固定概念ががちりと彼らの目を覆っていた。

しかしここで、一人のサマリヤ人の女性がイエスキリストに出会って  
自分も神の子であると知って救われる。この事をきっかけにサマリヤの  
町中の人々が救われた。

弟子達 : 救われるはずがない!

イエス様 : 「目をあげて畑を見なさい、色づいて刈り入れるばかりになっています。」

サマリヤの女性はイエス様に言った。

「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

誰かによって、既にみことばの種がまかれていた。

### 【会津若松の証し】

会津若松から車で40分ほど行った西会津町へ。

- ・英国の宣教師エリザベツ・パルマ師によって22年間（1973～1995）に亘る種蒔きがなされた・・・のべ1,500回の礼拝
- ・パルマ宣教師が英国へ帰国後しばらくして、見える形の教会がなくなってしまった。
- ・かつて蒔かれた種が、刈り入れるばかりになっていると信じ、収穫のために出てゆく（ルカ10：2）